

平成24年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」実績報告書

1. 事業名称

”農業の価値”を消費者に伝える6次産業人材養成に向けた学習システム構築プロジェクト

2. 事業実施期間

委託を受けた日(平成24年7月31日)～平成25年3月15日

3. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

職域プロジェクト

産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの名称

農業の価値を消費者に伝える6次産業人材養成プロジェクト

関係するコンソーシアムの名称(職域プロジェクトのみ記入)

食と農を結ぶ産学官連携コンソーシアム(食農コンソーシアム)

4. 分野名

②食・農林水産

「その他」分野名

5. 代表機関

■ 代表法人

法人名	学校法人有坂中央学園
理事長名	中島 利郎
学校名	中央農業グリーン専門学校
所在地	〒 371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4

■ 事業責任者

省略

■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

省略

6. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人有坂中央学園 中央農業グリーン専門学校	総括、実証講座等	群馬県
2	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	カリキュラム開発協力校	富山県
3	学校法人龍澤学園 盛岡カレッジオブビジネス	カリキュラム開発協力校	岩手県
4	学校法人宮崎総合学園 宮崎情報ビジネス専門学校	カリキュラム開発協力校	宮崎県
5	群馬県農業協同組合中央会(JA群馬中央会)	農業分野	群馬県
6	群馬県農業法人協会	農業分野	群馬県
7	前橋市農業協同組合	農業分野	群馬県
8	群馬県観光物産国際協会	観光分野	群馬県
9	前橋商工会議所	商工分野	群馬県
10	高崎経済大学	コンソーシアム統括団体	群馬県
11	社団法人JC総研	普及、啓発活動支援	東京都

(2) 協力者等

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
	野村 一正	元 株式会社農林中金総合研究所 顧問	農業分野 有識者委員	東京都
	金子 昌彦	カネコ種苗株式会社	農業分野 有識者委員	群馬県
	竹内 勝	有限会社竹内園芸 代表取締役	農業分野 有識者委員	徳島県
	黒澤 英俊	多野藤岡農業協同組合 常務理事	農業分野 有識者委員	群馬県
	永澤 徹	ルンズ・ファーム株式会社 代表取締役	農業分野 有識者委員	群馬県
	嶋崎 秀樹	農業生産法人 有限会社トップリバー 代表取締役	農業分野 有識者委員	長野県
	田村 善男	ぐんま県央青果株式会社 常務取締役	流通分野 有識者委員	群馬県
	高木 捷治	株式会社フレッセイ 常勤監査役	流通販売分野 有識者委員	群馬県
	松本 州史	東京理器株式会社	流通販売分野 有識者委員	東京都
	土屋 裕雅	株式会社カインズ代表取締役社長	流通販売分野 有識者委員	群馬県
	岩井 雅之	ファームドウ株式会社 代表取締役	流通販売分野 有識者委員	群馬県
	田島 悦久	株式会社ボルテックスセイゲン 常務取締役	運輸分野(通関) 有識者委員	群馬県
	鬼頭 誠司	キューズファクトリーズ株式会社 代表取締役社長	外食分野 有識者委員	愛知県
	三谷 徹男	株式会社CRI中央総研 代表取締役社長	経営分野 有識者委員	群馬県
	吉田 一衛	一般社団法人 ひと・もの・地域連携支援協会	有識者委員、コーディネーター	東京都
	清水 一徳	株式会社コミュニティブレインズ 代表取締役	有識者委員、コーディネーター	東京都

(3) 産学官連携コンソーシアムの下部組織（設置した場合に記載。職域プロジェクトの場合は記入不要）

名称()			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
名称()			
名称()			

7. 事業の内容等

(1) 事業の概要

“農業の価値”を消費者に伝えることができる、“農業の価値を体得している”6次産業人材養成を目的に、調査研究を通じ、6次産業人材学習ユニットを作成し、体験を経験化する学習ツールや6次産業人材養成基礎テキスト、ケースメソッド教育の試行導入に向けたケースブックを開発し、実証講座を行い、開発物の検証を行うとともに、“農業の価値を体得した”地元志向の求職者に6次産業に従事するための能力養成の機会を提供しました。

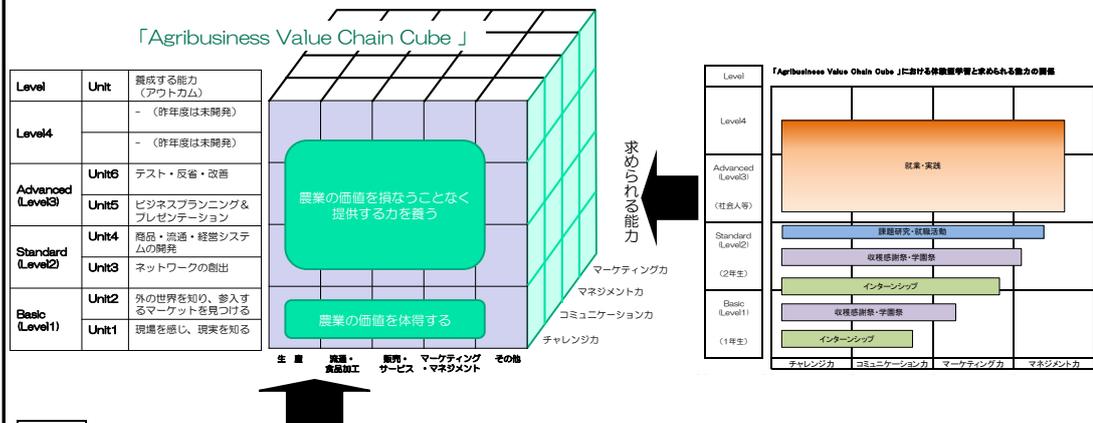
(2) 事業の内容について（産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトにおける具体的な取組内容）

本事業は、日本の風土だけでしか作れない農作物を、新しい日本製品（ジャパンプロダクト）として日本国内だけでなく海外展開も視野に入れた産業として大きく成長する可能性をもつ6次産業を担う、“農業の6次産業ベンチャー”養成に向け、“農業の価値”を消費者に伝えることができる、“農業の価値を体得している”6次産業人材養成を目的に、調査研究や開発事業からなる取組を、構成機関や協力者、食農コンソーシアムと連携を取り、実施しました。

人材・教育ニーズ調査と事例調査の結果や研究成果は、食農コンソーシアムに資料として提供するとともに、食農コンソーシアムと連携して、教材等の開発を推進しました。また、調査・研究・開発の各フェーズを通して得られた知見を取りまとめ、構成機関等を通して普及を行いました。

●6次産業人材養成学習ユニット「Agribusiness Value Chain Cube」(AVCC)の開発

“農業の価値を体得している”6次産業人材養成に向け、CAGカリキュラムをベースとした、中核人材に必要な専門知識やスキルなどを学習する、学習ユニット積み上げ式に対応する「Agribusiness Value Chain Cube」(AVCC)を開発しました。詳しい内容は、別冊冊子「実績報告書」を参照ください。



Level	Unit	内容
Level 4		
Advanced (Level 3)		事業計画の作成, ビジネスアイデア発想, 事業計画の作り方, 商品開発技法, マーケティング
Standard (Level 2)		農業実習, 農業法人, 農業政策, 環境と農業, 実践実習, 食農概論, 食品加工論, 食品流通論, 流通経営調査, テーブル演出演習, メニュー・レシピ研究, 地産地消研究, フラワーデザイン, フードコーディネート, フードビジネス, 農業情報処理, 農業経営分析, 課題研究
Basic (Level 1)		生産概論, 花卉・園芸実習Ⅰ, 土壌肥料概論, 病害虫概論, 農業機械概論, 作物概論, 米実概論, 野菜園芸概論, 食農概論Ⅰ, 食農概論Ⅱ, 飼理学, 食品学, 実習学, フラワーデザインⅠ, 飲食概論, 食文化, POP広告, 色彩基礎, サービス技法, 農業経営概論, 商業簿記, 応用化学, コミュニケーション, ハブコン演習Ⅰ, ビジネス実践
		生産, 流通・食品加工, 販売・サービス, マーケティング・マネジメント, その他
		産学連携推進, 食の検定, 販売士, 日商簿記検定・全経簿記検定, フードコーディネーター

●6次産業人材養成総合テキストと事例研究教材の開発

“農業の価値が分かる”6次産業人材を育成するために、6次産業の意義や定義から始まり、必要とされる知識の概要を含めた6次産業人材養成総合テキスト」の開発を行いました。テキストの詳細は、別冊冊子「6次産業人材養成総合テキスト」を参照ください。

また、経営能力(専門知識と意思決定力)のうち、自然環境リスクや経済リスクに対応する意思決定力を養成するためのユニットプログラム「事例研究」(ケースメソッド)を開発し、実証講座を行いました。このユニットプログラムで使用するテキストを開発しました。テキストの詳細は、別冊冊子「ワイガヤですすめるビジネスモデルジェネレーション-事例研究教材-」を参照ください。



●実証講座(検証)の実施

事業計画にもとづき、以下の講座を実施した。実証講座における実証内容については、別冊冊子「実績報告書」第IV章をご参照いただきたい。

- A 6次産業人材養成講座 基礎コース
- B 6次産業人材養成講座 ベンチャー育成コース
- C ケースメソッド講座

実証講座の開催概要は、以下のとおりである。

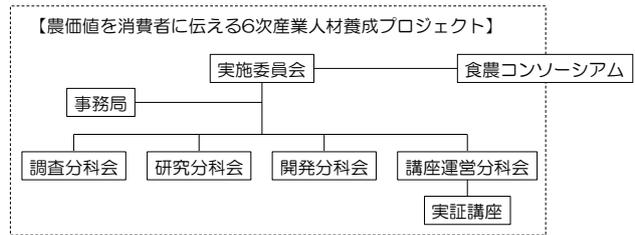
- A 6次産業人材養成講座 基礎コース
 - ①開催場所 群馬県前橋市
 - ②会場 中央農業グリーン専門学校
 - ③開催期間 平成25年1月19日～2月28日 (計15日間)
 - ④受講者 15名
- B 6次産業人材養成講座 ベンチャー育成コース
 - ①開催場所 群馬県前橋市
 - ②会場 中央農業グリーン専門学校
 - ③開催期間 平成25年1月19日～2月16日 (計8日間)
 - ④受講者 16名
- C ケースメソッド講座
 - ①開催場所 群馬県前橋市
 - ②会場 中央農業グリーン専門学校
 - ③開催期間 平成25年2月21日～2月23日 (計3日間)
 - ④受講者 12名



(3) 事業実績について（連携体制、工程、普及方策、計画時に設定した活動指標(アウトプット)・成果実績(アウトカム)の評価等）

①連携体制□

1次産業から3次産業まで、分野を超えた連携を行うため、産業界から生産・流通・販売に関する企業に参画していただくとともに、岩手県及び富山県、宮崎県の専門学校とも連携し、地域間の連携も図りました。また、食農コンソーシアムとも一体的に活動できるよう構成機関に参加していただきました。



- ◆構成機関・・・ 11団体・機関により構成
- ◆実施委員会・・・プロジェクト全体の進捗や方向性を決定し、プロジェクトマネジメントを担当
- ◆調査分科会・・・人材・教育ニーズ調査及び事例調査を担当
- ◆研究分科会・・・6次産業人材養成学習ユニット及び体験学習カルテ等の研究を担当
- ◆開発分科会・・・6次産業人材養成総合テキストの開発を担当
- ◆講座運営分科会・・・実証講座の運営を担当

②期待した活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)

【アウトプット】

本事業の計画通り、職域プロジェクトのアウトプットとして、以下の4点を開発した。

- ①「Agribusiness Value Chain Cube」(AVCC)
- ②「6次産業人材養成総合テキスト」
- ③「事例教育教材 ワイガヤですすめるビジネスモデルジェネレーション」
- ④「体験学習カルテ」

【成果目標】: 計画段階において設定していたもの

- ①事業計画通り、教材等の開発を行い、実証講座にて検証を行う
- ②農価値を消費者に伝えることができる、“農価値を体得している”人材の養成を行う
- ③開発する教材テキストを配布し、成果の普及を行う

※上記①～③の内容を、本事業では全て実施することができた。

③成果実績

実証講座では、食農コンソーシアムの提示したユニット構成の検証や学習ツールの導入などを行い、受講生アンケートや受講確認シートなどを利用することにより、効果等の把握を行った。また、受講生の達成度評価(自己評価)も実施した。

・ユニット構成の検証では、定量的なデータを集めることは難しかったが、定性的なデータを収集することで、ユニット構成の有効性を検証できたといえる。

①座学②実習③ワークショップの構成が、学習者にとって有効で作用すると言えることは分かったが、この一連の流れをどのように組み立てていくことが効果的であるかまでは、検証できなかった。この点については、次年度以降の課題として取り組みたい。

・受講確認シート等の学習ツールでは、役に立ったとの意見が半数以上であったが、ツールの構成や内容については、今後も検討が必要であると考えている。

座学と実習をどのようにつなげられるかが、一つのポイントでもあり、今年度使用した「受講確認シート」の内容をさらに改良していきたい。また、この学習ツールが、食農コンソーシアムの提示しているユニット構成をより有効的に作用させるよう、次年度以降も検討し、試行的な導入を続けていきたい。

(4) 事業終了後の方針について(継続性、発展性 等)

①継続性

委員会等で意見を頂戴した、イベントや行事をカリキュラムに取り込む方法も、学習成果を一定以上に保つための方法論を検討すべきであると考えられ、次年度以降も課題として、継続的に学習システムの改良に取り組みます。

また、各専修学校が、それぞれの学校で教育コースを実施し、教育カリキュラムの有効性検証を図り、検証結果を教育カリキュラムに反映させます。

開発した6次産業人材学習ユニットを活用し、求職者支援制度などを活用し、職業訓練講座を開講し、人材養成を進めます。また、「6次産業人材養成総合テキスト」は、これらの講座で活用し、事業成果を普及するとともに、人材養成に資するものとします。

②発展性

「食と農を結ぶ産官学連携コンソーシアム(食農コンソーシアム)」と連携し、地域で食農人材を育成する学習ユニット積み上げ式の学習システム構築を推進します。

「事例演習」ユニットの事例(ケース)開発を進め、ユニット内容の充実を図ります。